



輝け！北っ子

平成30年11月2日発行

11月号

発行責任者 紺野 宗作

北っ子まつり ご来場ありがとうございました！



27日（土）たくさんの方々にご来場いただき、学習発表会「北っ子まつり」を開催することができました。子ども達への温かい拍手、励ましの言葉など本当にありがとうございました。

北っ子まつりの日の夜、私の同級生から突然電話が入りました。彼とは、北小学校と二本松第一中学校と同級です。彼は、現在東京に住んでいますが、仕事も忙しく普段はなかなかまとまった休みもとれないようです。しかし、しばらくぶりのまとまった休みがとれたので、二本松に帰省をしたというのです。実家に帰り、「北っ子まつり」があることを知り、（私には知らせずに）見学に来てみたとの電話でした。彼は、自分の後輩である北小学校の子ども達の表現力の素晴らしさに感動し、自分の母校である「二本松北小学校」を誇りに思ったことなどを興奮気味に話をしていました。

今、この学校に通う子どもたちは、この二本松北小学校が「母校」です。そして、この二本松が「ふるさと」です。ふるさとの未来を担う子どもたちには、地域の一員として地域の人々と交流しながら、二本松の素晴らしさを学んでほしいと思っています。そのことが、子どもたちにとってかけがえのない宝物となるとともに、人としてのあり方を支える、ふるさとに対する愛着や誇りの心を育むことになっていくと思います。

今、本校では「北小学校の教育を語る会」を設立し、学校と地域とどう協働していくかを模索しているところです。地域が学校を育て、学校が地域を育てるという関係性が定着していくことを目指していきたいと考えています。

「11月は読書月間」……本に親しもう！

学校では、図書ボランティアの方々に「読み聞かせ」をしていただいたり、図書委員会の子も達がブックトーク（図書紹介）をしたり、読み聞かせをしたりするなどの活動をしています。しかしながら、子どもの読書離れは深刻です。要因の一つにメディアの問題があるのではないかと思います。子どもも親も一緒になってメディアコントロール力を高め、生み出された時間を読書の時間にしていく営みが必要です。本校で毎月行っているメディアコントロールデーでは、是非とも家族で本に親しんで欲しいと思います。11月は読書月間。学校全体で読書の雰囲気高めたいです。

家族ふれあい読書のススメ

読書習慣がない子に、「読書は大事だからたくさん本を読みなさい。」と言っても読書好きにはならないでしょう。子どもに寄り添う親がいて、読むことが楽しいという体験をたっぷりさせてあげることで読書好きの子どもになっていくのだと思います。

昨年、安達地方図書館協議会より「家族読書おすすめの本100選」のパンフレットが各家庭に配付されました。家族読書とは、家族との会話が少なくなったという現代の社会的問題を、読書という方法で和やかな家庭環境をつくり、家族のコミュニケーションを図ることで「家族の絆」を深めていく読書運動です。言い換えれば「家族ふれあい読書」と言えます。

本校では、家族読書にふさわしいと思われる図書の購入を重点的に進めています。子どもを中心に家族で同じ本を読み、読んだ本の感想の話し合いをしてみましょう。学校では、高学年のお子さんと一緒に十分楽しめる家族読書用の図書を整備しています。子どもと一緒に本を楽しみながらページを開き、ページごとに感じたことを語り合うことで、人の人生を照らしあう等、大切なことを本は教えてくれるはずです。



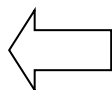
全学級に家読にふさわしい図書を整備しました。高学年用の絵本もたくさんあります。是非家族で読んでほしい！



「リレー家読」 楽しいです！

1年生から3年生は、「リレー家読」に取り組んでいます。学級ごとに6人～7人グループを編成し、1冊の本を家に持ち帰り家読をします。その同じ本をグループ内の人にリレーして家読していきます。

子ども達は1冊の本を友達同士でリレーして家読するのが楽しみになっています。多くの保護者の方からもたくさんの感想をいただき、それを読ませていただくのも我々教師も楽しみになっています。



「今日は家読だ！」……家読バックを片手に